



令和2年2月28日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

未来創生

代表 伊藤 寿郎

行政視察調査報告について

行政視察調査を実施したので、その内容を別紙のとおり報告いたします。

## 行政視察調査報告書

- 1、期日 令和2年2月17～18日
- 2、調査地 (1) 宮城県山元町 (2) 宮城県加美町
- 3、調査事項 (1)コンパクトシティの取り組みについて
- (2)議員協議会の取り組みについて

### 4、調査参加者

議員 伊藤寿郎

議員 寒河江司

議員 渡部秀一

アドバイザー 議長 加藤俊一

### 5、調査地での説明者

(1)宮城県山元町議会議長 岩佐哲也

議会副議長 高橋建夫

議会事務局長 武田賢一

議会事務局班長 嶋田洋子

(2)宮城県加美町議会議長 工藤清悦

議会運営委員会委員長 早坂伊佐雄

議会運営委員会副委員長 高橋聡輔

加美町議会事務局事務局長 武田守義

事務局次長 内海 茂

## 6、調査の概要

### ① 宮城県山元町の概要

#### (1) 位置・地勢

町の地形は、西部が山地（森林）、中部が台地（畑・果樹園）、太平洋に面した東部が低地（水田）となっている。町内は大きく北部の山下地区、南部の坂元地区、海岸地区の三つに分けられる。もとは国道6号線沿いの旧山下・坂元両村の役場が置かれていた辺りに人家が集中していたが、これらの部落はともに最寄駅（常磐線の旧山下駅・旧坂元駅）からは離れており、電車を利用した通勤・通学にはやや不便であったので、次第に常磐線沿いにも宅地が形成されていった。

#### (2) 歴史

承和元年（931年）頃に著された『和名類聚抄』に「日理（わたり）郡に四郷を置く、すなわち坂本・菱沼・亘理・望多」とある。これが山元町域が史料上に現れた最初である。

（昭和30年）2月山下村と坂元村が合併し、山元町が発足

（平成23年）3月11日 - 東北地方太平洋沖地震が発生。大津波により沿岸

地区 6 部落が壊滅して多数の死傷者を出し、常磐線の町内区間が不通となる。

(平成 28 年) 12 月 10 日 - 常磐線の町内区間が運転を再開。山側に移転した山下駅と坂元駅の新駅舎が開業。

### (3) 現況

山元町は、宮城県沿岸部の最南端にある町。人口 11,896、184 人/km<sup>2</sup>の人口密度を有している。土地が平らなため、東日本大震災では町面積の 37%が津波で浸水し、人口の 45%に当たる 7543 人の居住区域が水没。関連死 18 人を含む 635 人が犠牲となった。

## 7、調査内容と質疑応答

### (1) 山元町のコンパクトシティの考え方は

山元町は、震災時の津波により都市構造が大きく変化し、大半の沿岸部は津波防災区域の指定により居住することに制限を受けることとなった。

このことから、今後、町民の居住する場所は、都市インフラが集中的に整備された既存街地や集落が多く位置する内陸部に集約し、展開していく。

### (2) 山元町版コンパクトシティとは

3 地区の新市街地は、既存市街地や主要交通骨格軸(国道、JR 等)と連携して整備されることで、本町の都市構造に対応した集約型の都市(コンパクトシティ)作りを牽引します。 今後の本町のまちづくりは、主要交通骨格軸上に新市街地や既存市街地、都市施設等が配置され、東西を避難路等の交通ネットワークで結節することで、コンパクトにまとめたまちづくりを目指します。そして、将来的な少子高齢化に対応した利便的で快適な生活環境の形成が期待できる。

(3) 実現に向けて具体的な進め方は

1. 復興 に向けて…

①旧中浜小学校の震災遺構整備 ②避難道路の整備

③大規模農地整備に伴う換地業務④コミュニティ再生

2. 過疎からの脱却…人口減少の抑制 (震災後減少率27% 12,240人)

3. 年齢三区分別人口の是正…小さくてもバランスの取れた人口

4. 小中学校の再編…少子化を見据えた教育環境整備

5. 交流人口100万人確保…パークゴルフ場などレクリエーション施設整備

6. ①ポスト復興後の組織再編と定員管理

②業務のアウトソーシング

③公共施設の効率的な維持管理 遊休資産の処分と活用

以上を進めていきたい。

8. 現地視察

別紙(現地案内ルート図)の通り議会事務局長武田賢一氏の同行のもと、  
現地視察を行った。

## (2) 宮城県加美町の概要

### ① 位置・地勢

加美町は、宮城県の北西部に位置し、東西に約32km、南北に約28km面積は約461km<sup>2</sup>あり、県内でも有数の面積を有している。西部は奥羽山脈を隔てて山形県尾花沢市に、南部は宮城県色麻町に、北部から東部にかけて宮城県大崎市に接している。気象は、寒暖の差が大きい内陸型気候に属し、西部の山岳・丘陵地帯は降雪量も多く、豪雪地帯に指定されている。

### ② 歴史

加美町の沿革としては、明治に入り、政府が中央集権国家の基礎を確立すると、明治22年頃には、戸籍や小学校などの事務を円滑に行うことを目的に、全国一律に行った「明治の大合併」により、27村から1町5村【中新田町・鳴瀬村・広原村・小野田村・宮崎村・賀美石村】に統合された。

昭和29年頃には、新制中学が合理的に運営できる人口規模という点を念頭にした「昭和の大合併」により、中新田町、広原村、鳴瀬村が『中新田町』に宮崎村、賀美石村が『宮崎町』になり、昭和18年に町政を施行した『小野田町』を含め、3町を構成して来た。そして、平成15年4月1日に、中新田町、小野田町、宮崎町が合併し、『加美町』となった。

### ③ 現況

平成15年合併時の総人口は28,289人で、平成15年から平成31年までの16年間で5,074人、17.94%減少。

世帯数は7,783世帯から8,106世帯へと増加し、1世帯あたりの人口は3,63人から2,86人へと減少し、この16年間で単身世帯や核家族化が進んでいる。

#### (1) 加美町の議会活性化について

まとまった会派等がないため、これまでは、それぞれの各議員が個人的な繋がり  
で活動してきた。

現在の早坂議長が就任後、平成29年5月からこれまではなかった議員だけで  
重要な課題について討議する「議員協議会」を立ち上げた。執行部と対等に議論  
していくには、議員個人の力だけでは、充分ではないという各議員の共通認識で  
ある。議員協議会では、副議長を座長と議員間討議を行い、町の事業運営のあり  
方についての問題点を浮き彫りにした。

平成30年3月の予算審査では、最終的にとりまとめたものを、町長に対して  
総括質問を行い、最終答申のない公民館の基本設計料など加美町議会せ初めて修  
正可決となり、しかも全員一致であった。議員協議会を立ち上げて、活発な議員  
間討議で議論してきたことは、チーム加美町議会として、慎重な審査に繋がり行  
政のチェック機能を果たし、議会の活性化に貢献した役割は大きい。

#### (2) 調査内容と質疑

- ・議員協議会での審査や日程は

定例会前の予算、決算審査委員会のあり方には十分に時間を掛け見直す。これまでは1.5日間程度で間項目ごとに行われてきたが、予算審査から常任委員会の所管する担当課ごとに課長だけでなく係長以上の出席を可能にした。

- ・住民との意見交換ではどのような活動をされているか

各常任委員会が農業法人団体や婦人会などからの意見・要望を取りまとめ、現地を確認したり、要望書を提出するなど改善要望を行っている。

- ・政策への提言・要望は

各常任委員会の活動報告を議員全員で共有するとともに、政策要望書を議員協議会で検討し、執行部に提出して次年度の予算等に反映させている。

- ・子ども議会を開かれているようですが、今後は

平成27年度から「加美町 未来・夢 子ども議会」として、町内の全小学校から6年生の代表2名ずつの子ども議員として任命し、議会の仕組みや行政の仕事を理解・学習し関心を高めてもらう目的で、議会主催で実施しています。また、議員が各学校を訪問し事前勉強会を実施する等、議会に関心持ってもらう活動もおこなっている。さらに、子ども議会も議会中継としてネット配信しており、現在は、スマートフォンでも中継が見られるように改善している。



## 9、視察を終えて

山元町議会における復興の想いは計りしれない。将来を見据えた今後のまちづくり（コンパクトシティの取り組み）にはハード整備だけではなく、ソフト面においても議会、町民と問題意識を共有しながら整理する姿勢を学ばせていただいた。当町課題である、庁舎跡地活用やメディカルタウン構想へ向けてさらに調査研究が必要であり、後世に誇れるまちづくりを目指さなくてはならない。

加美町議会では議員協議会における活発な議員間討議がチーム一丸となり慎重な審査と行政に対するチェックが十分に機能している。本町議会の更なる議会活性化に切磋琢磨を怠ることなく努力しなければならないことを痛感した。なお

両町議会広報委員会様には平成29年、30年、当町に広報の行政視察においていただいて関係もあり、丁寧な歓迎を頂き、この度の視察調査にご協力いただきました。心から感謝申し上げます。

# 現地案内ルート図

(R2.2.17視察用)

